

第98号 通巻18巻第1号
1997年5月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎077-585-4397

☎524-0212
守山市服部町2250番地

☆発掘調査だより☆

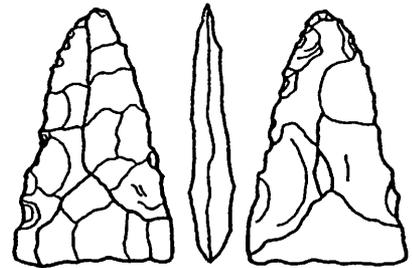
1. 金森東遺跡12次調査 (守山町)

区画整理事業に伴う^{かねがもりがし}金森東遺跡の発掘調査も4月20日から再開しています。これまでの調査によって、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落が見つかりました。これらの集落の広がりや隣接する他の遺跡との関係などを今後の調査で確認していきたいと思ひます。

さて、現在調査を進めているところでは古墳時代中期の溝や中世の^{ほったてばしらたても}掘立柱建物などが見つかりてくるほか、^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居ではないかと考えられる遺構も検出されています。まだ調査中であるため、詳細はよくわかりませんが、次号では具体的な成果を報告したいと思います。(小出)

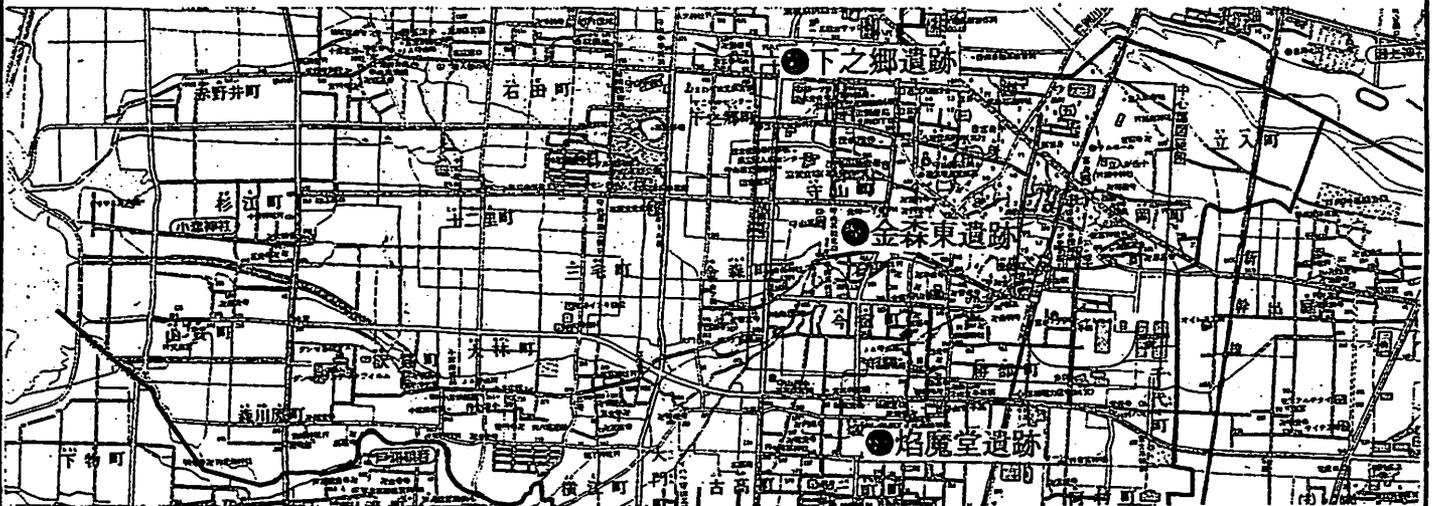
2. ^{えんまどう}焰魔堂遺跡の調査 (焰魔堂町)

4月下旬から民間の宅地造成工事に先立ち、約3600㎡を対象に発掘調査を開始しました。これまでのところ、^{ほうけいしゅうこう}方形周溝墓2基と竪穴住居1棟のほか、溝、ピットなどを検出しています。また遺物では土器のほか^{だはいせきぞく}打製石鏃1点が見つかりました。石鏃は方形周溝墓の周溝を掘削中に見つかったもので、その時期についてはよくわかりません。



打製石鏃実測図 (S=1/1)

調査はまだ開始したばかりです。次号ではもう少し詳細な報告をしたいと思います。(中村)



発掘調査位置図

3. 下之郷遺跡24次調査（下之郷町）

都市計画道路建設に伴い、昨年10月から下之郷遺跡を調査しています。今回の調査地は建設が予定される道路の延長部約200mを対象としていて、弥生時代中期の環濠集落^{かんごうしゅうらく}の中心部分を横断するかたちで調査が進められています。下之郷遺跡はこれまでに24回の調査がおこなわれてきたものの、環濠の内側のムラの様子ははっきりとわかりませんでした。今年度の調査ではムラの内部を発掘するため、新たな発見が期待されます。そこで、これまでの調査成果をおさらいする意味で、おもいつくままにいくつか書いてみようと思います。

- ① 下之郷遺跡では3条から9条の濠が楕円形に掘りめぐらされている。その直径は400mを越える場所があり、全国でも屈指の規模を誇る環濠集落である。
- ② 環濠から出土する土器の年代は弥生時代中期後葉^{ちゆうきこうよう}（約2100年前）のものであるが、環濠によって出土する土器の形などが少し変化している。このことから、環濠が同じ時期に埋もれたのではないことがわかる。
- ③ 環濠は「大坂城」のように常に水をたたえていたのではなく、空濠^{くうごう}の状態であったと考えられる。
- ④ 環濠の外側には墓域^{ぼいき}（方形周溝墓群^{ほうけいしゅうこうぼぐん}）が4カ所以上で確認されている。（ムラ人が分散して、墓を築いた。）
- ⑤ 環濠集落の出入り口が2カ所で発見されている。1か所は集落の北西側で、濠を埋めためて「土橋^{どし}」状の通路となっており、もう1か所は北東側で、濠に「木橋^{きし}」が架かっていたと推定される。
- ⑥ 今のところ、集落内からは掘立柱建物が4棟見つかっている。
- ⑦ 当時の戦いに使われたと考えられる武器がたくさん発見されている。（弓、盾、磨製石剣^{たて}、磨製石戈^{たて}、磨製石鏃^{ませいせつせん}、打製石鏃^{たて}、環状石斧^{ませいせつせん}、環石^{ませいせつせん}、銅剣など）
- ⑧ 環濠の内側には濠に沿って、「柵^{さく}」や「門柱^{もんちゅう}」の跡が数カ所で確認されている。
- ⑨ 当時の農業の様子を探るうえで重要な木製農具^{もくせいのおうぐ}やその作りかけの材木が発見されている。（広鋤^{ひろくわ}、着柄鋤^{ちやくへいすき}、泥よけなど）
- ⑩ 当時の集落周辺に繁茂^{はんも}していた植物が環濠内から多量に見つかっている。（スギ、コナラ、カシ類、ハンノキ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、ニレ、タラノキ、ヤマグワ、ヒサカキ、ヤマハゼ、ヌルデ、ムクロジ、トチノキ、モモ、キイチゴ、マメ類、ウリ、ニワトコ、オモダカ、ノブドウ、カヤツリグサ、ムラサキシキブ、コメなど）
- ⑪ 当時の集落周辺に生息していた動物や昆虫が発見されている。（動物・・・イノシシ、シカ、昆虫・・・オサムシ、マメコガネ、モリヒラタゴミムシ、コアオハナムグリ、エンマコガネ、ゲンゴロウ、ガムシ、貝類・・・タデボシガイ）

以上、簡単に下之郷遺跡の調査成果について紹介してきましたが、今後解明しなければならない課題

は山のようにあります。今後の調査に期待したいと思います。

(川畑)



こなら



ゲンゴロウ科の仲間



コガネムシ科の仲間



ガムシ科の仲間



オサムシ科の仲間



げやき

☆最近確認された中世の城跡

『滋賀県中世城郭分布調査報告書』によると、市内には^{かねがもりじょう}金森城や^{みやけじょう}三宅城など約27ヶ所の城跡があることがわかります。ほとんどの城跡は具体的な場所や内容などよくわかっていませんが、各種の調査や見学会などで市内を巡回すると、思いがけない発見をすることがあります。

平成6年1月26日早朝、立田町の円福寺一帯で文化財の消防訓練が行われました。約2時間の訓練を終え、帰路につく途中、民家の敷地の端に^{まどろい}土塁と考えられる幅約2m、高さ50cm程の土の高まりを見かけました。立田町には^{とだじょう}戸田城と^{たちばなじょう}立花城の二つの城跡があると推定されていましたが、確実な場所はよくわかっていませんでした。発見した土塁は戸田城の一部ではないかと考えられ、その存在が確認できたわけです。

また、平成8年には滋賀県教育委員会による近世民家調査が進められ、市内では矢島町や守山町の民家を調査する機会を得ました。このうち、矢島町の民家(武道天神社の東側)は江戸時代後期の^{てんぼう}「天保の義民」時の庄屋の屋敷であり、建物も古く、庭園も良好なものでした。この調査中、敷地の東側に土塁があることを確認することができました。今回土塁を確認した場所は従来から^{やしまごじょう}いわれてきた矢島御所の推定範囲の北端にあたります。土塁は幅約5m、高さ1mでの規模で、矢島町集落に残る道路と同じくほぼ南北方向に築かれています。約30年程前の地図をみると集落内に残る道路が一定の距離で折れ曲がっていて、三宅町の三宅城推定地付近にみられる道路の特徴に類似していることに気づきます。また、周囲には「かまえ」、^{やしきだ}「屋敷田」、^{ひがししろ}「東白(城か?)」、^{きたかきうち}「北垣内」など城や屋敷に関係すると考えられる地名(小字名)もみられ、矢島町集落一帯に城跡が存在したことが推定できるわけです。矢島町には以前から^{あしかがよしあき}足利義昭の城館跡である^{じょうかんあと}矢島御所遺跡が知られていますが、従来から考えられてきた推定範囲の外側にもそれとは別の中世城郭が存在した可能性が考えられます。

以上のように、ここ数年の間に2ヶ所で城跡と考えられる土塁が確認されました。しかし、守山にある中世の城跡についてはまだまだ不明の点が多いことは否めません。今後もたくさんの発見がなされることが期待されます。

(山崎)

